

令和3年度ふくおか「ふるさと寄附金」 活用状況報告書

ふるさと寄附金へのご協力ありがとうございました。



福岡県知事 服部 誠太郎

この度は、多くの皆様から多大なご寄附を賜り、厚くお礼申し上げます。

令和3年度は、延べ726人(団体)の方から17,951,033円のご寄附をいただきました。

今回、寄附金の活用状況について、ご報告させていただきます。

福岡県の新たな飛躍に向けて、「誰もが安心してたくさん笑顔で暮らせる福岡県」を目指した地域社会づくりを進めていきますので、今後とも応援していただきますようお願いいたします。

令和3年度にいただきました寄附金の受け入れ状況は、下表のとおりです。

	活 用 方 法	件数(件)	寄附額(円)
0	福岡県の施策全般	116	1,776,366
1	新型コロナウイルス感染症に関する対策・支援	124	3,049,725
2	令和3年8月豪雨	131	8,305,942
3	豪雨災害からの復旧・復興	110	1,146,000
4	県産農林水産物の販売・消費の拡大	39	430,000
5	誰もがいきいきと活躍できる社会の推進	10	100,000
6	障がいのある子どもたちの安心した暮らしの充実	36	391,000
7	子どもの貧困対策	81	1,841,000
8	外国大学への留学を目指す若者への支援(福岡県アンビシャス外国留学支援基金)	9	164,000
9	スポーツ振興とアスリート育成の支援	7	62,000
10	暴力団壊滅に向けた対策の推進	12	140,000
11	移住定住の促進	3	50,000
12	福岡県の強みを活かした観光ブランドの確立	17	170,000
13	世界遺産等の文化資源の保存・活用及び継承	31	325,000
	合 計	726	17,951,033

寄附金の活用状況について、一例をご紹介します。

1. 新型コロナウイルス感染症に関する対策・支援

- 令和3年度新型コロナウイルス感染症患者受入支援事業費補助金について
新型コロナウイルス感染症患者の円滑な受入を実現するため、患者の入院を受け入れた医療機関に対し、受入患者1名につき30万円を支援しました。
(交付実績 193医療機関)

- 事業の効果について

患者受入医療機関支援費の交付により、患者受入に必要な資材の確保や医療従事者の心身の負担軽減等を図ることを通じて、患者の円滑な受入を実現することができました。

ひとりひとりの行動が
福岡を救う。日本を救う。



2. 令和2年7月豪雨災害 復旧・復興支援

3. 豪雨災害からの復旧・復興

- 平成29年7月九州北部豪雨や令和2年7月豪雨災害からの産地の復興を目指し、被災農家や新たな担い手に対して芸品目の栽培に必要な施設・機械の導入を支援しました。



4. 県産農林水産物の販売・消費の拡大

- 県産農林水産物と日本酒等の加工品を「福岡の食」として、首都圏、関西圏等の外食・中食事業者へ一体的に売込み、700を超える店舗で博多和牛や天然魚、あまおう等の県産食材を使ったフェアを開催しました。
- 海外6カ国・地域の量販店や飲食店における販売促進フェアの開催、インフルエンサーを活用した販売促進、Web商談会などを通じ、海外への県産農林水産物の販路拡大に取り組みました。



5. だれもがいきいきと活躍できる社会の推進

- 災害時はもとより平常時においても多様な視点で地域防災・復興に対応できる人材を育成するとともに、地域コミュニティの男女共同参画を推進するため、自治会役員や地域コミュニティのリーダー等を対象とした「地域リーダーのための災害対応力向上講座」を実施しました。
(受講者数 552人)
- 商業施設において、障がいのある方がつくる「まごころ製品」の販売会を開催したほか、障がいのある人による美術作品を募集し、展示・表彰するふくおか県障がい児者美術展を開催しました。(応募作品数 635点)



6. 障がいのある子どもたちの安心した暮らしの充実

- ・ 在宅の障がい児への療育支援を行うほか、医療的ケア児者を介助する家族等の負担軽減を図るため、看護師を在宅に派遣する取り組みを行いました。



7. 子どもの貧困対策

- ・ 市町村が実施する生活保護世帯及び市町村民税非課税世帯に対する放課後児童クラブ利用料減免に要する経費の一部を助成しました。(実施市町村 58 市町村)



8. 外国大学への留学を目指す若者への支援

- ・ 国際的に活躍する人材の育成を推進するため、外国大学に留学している青少年に奨学金を交付しました。(奨学金交付人数 9 名)



9. スポーツ振興とアスリート育成の支援

- ・ 県内の有望なアスリートをオリンピック等国际大会で活躍するトップアスリートに育成するため、22 競技団体を通して遠征経費を助成しました。



10. 暴力団壊滅に向けた対策の推進

- ・ 県民の安全確保に万全を期した上で、暴力団に対する取締りを徹底し、工藤會傘下組織組長や道仁会傘下組織組長等多数の暴力団員を凶悪事件、資金源犯罪等で検挙したほか、工藤會暴力団組員の社会復帰対策を強化する等、総合的な暴力団対策を推進しました。



(暴力団構成員の検挙者数 131 人、警察支援による暴力団からの離脱者数 65 人、警察支援による就労者数 4 人)

11. 移住定住の促進

- ・ 首都圏をはじめ県外からの移住を促進するための相談窓口「ふくおかよかとこ移住相談センター(東京、福岡)」において、相談を受けるとともに、しごと、住宅、企業等に関する相談会やセミナーを実施しました。(相談件数 6,561 件、セミナー・相談会参加者数 605 人)



1 2. 福岡県の強みを活かした観光ブランドの確立

- 産地再生の先頭を走る一番星となる事業者を創出するため、県内の伝統的工芸品生産事業者を対象に、経営診断・改善、ブランド構築、商品開発、流通・販売、情報発信に至るまでの一貫したコンサルティングを実施し、新しいテキスタイルブランドが誕生しました。



1 3. 世界遺産等の文化資源の保存・活用および継承

- 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業
構成資産やガイダンス施設、関係資料などを紹介するオンラインミュージアムの開設や、地元の世界遺産を学ぶオンライン講座・発表会を実施する「世界遺産キッズアカデミー」を実施しました。(実施校数 3 校)
- 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群
本遺産群の構成資産やガイダンス施設をめぐるスタンプラリーを実施しました。また、県外の方へのプロモーションとして、本遺産群とゆかりのある日本各地の歴史文化施設と連携した冊子制作・パネル展示、東京都内で開催された特別展「北斎づくし」でのブース出展等を実施しました。



ふくおか「ふるさと寄附金」トピックス

福岡県外にお住まいで、寄附をされた方に対し、県産の果物やお肉、伝統工芸品などのお礼の品を贈呈しています。下記のポータルサイト「さとふる」「ふるさとチョイス」にて申込ができますので、ぜひ一度ご覧ください。



※写真はお礼の品の一部です。

〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園 7 番 7 号
福岡県庁総務部税務課管理係
電話：092-643-3062 FAX：092-643-3069
電子メール：furusatokifukin@pref.fukuoka.lg.jp



さとふる



ふるさと
チョイス

令和3年度クラウドファンディング型ふるさと納税 寄附事業実施状況報告

(外国の大学に留学し、学位取得を目指す福岡県の若者のための奨学金)

本事業につきましては、令和3年度に延べ22件、2,018,200円の寄附をいただきました。寄附金は、「福岡県アンビシャス外国留学奨学金」として、外国の大学へ留学し、学位取得を目指す福岡県の若者への奨学金に活用させていただきました。

寄附事業の実績、効果について

令和3年度は、外国大学に留学している9名に奨学金を交付しました。

外国の大学への留学は、国内での進学等に比べて金銭的な負担が大きくなりやすく、高校生等が留学を決意することは容易ではありませんが、本事業により、若者のチャレンジを後押ししております。

現状、今後の対応について

この「福岡県アンビシャス外国留学奨学金」の取組は、将来、世界を舞台に国際的に活躍したいという志を持つ若者を応援するため、福岡県内の篤志家からの寄附を原資として開始し、平成21年度からこれまでに、計37名の若者に奨学金の交付を行ってまいりました。各都道府県が設置している留学支援奨学金の中でも手厚い支援となっており、地方自治体が実施するグローバル人材育成施策としては他に類を見ない取組となっております。

将来の福岡県をつくっていくのは「人」であり、今後、本県が発展していくためには、次代を担う「人財」の育成が重要です。今後も、未来ある若者が、様々な経験・体験を通じて、自らの可能性に気づき、能力を磨き、夢に向かってチャレンジすることを全力で応援してまいります。



令和3年度クラウドファンディング型ふるさと納税 寄附事業実施状況報告

（より多くの犬猫に譲渡の機会を！福岡県が取り組む人と動物が共生できる社会の実

本事業につきましては、令和3年度に延べ 115 件、3,170,862 円の寄附をいただきました。

寄附金は、「福岡県動物愛護センター」における猫飼養管理施設の新設・増設や成犬係留棟の新築に活用させていただきました。また、目標金額を超えた寄附金につきましても、新しい施設に設置するキャットタワー及びゲージ等の備品やえさ代等の飼養管理に係る費用に活用させていただきました。

寄附事業の実績、効果について

猫の飼養管理施設の新設・増設は令和4年3月に、成犬係留施設の新築は令和4年5月に完成し、5月から供用を開始しています。

猫の経過観察室や感染症等を治療する隔離施設の新設、老朽化した成犬係留施設の新築により、収容している犬や猫の健康状態をきめ細かに管理することができるため、犬や猫が元気に新たな飼い主を待つことができるようになりました。また、猫については、飼養施設の増設により、飼養可能な頭数が従来の2倍となり、新しい飼い主と出会うチャンスを多く設けることができるようになりました。

現状、今後の対応について

福岡県では、2021年1月に、人と動物の健康と環境の健全性を一体的に守るワンヘルスの理念を実践するため、福岡県ワンヘルス推進基本条例を全国で初めて施行しました。

この条例の基本指針の一つである「人と動物が共生できる社会の実現」に向けて総合的に施策を実施し、犬猫の処分数の削減に取り組んでいます。中でも、譲渡事業を重点的に行っており、その中心となるのが動物愛護センターでの譲渡事業です。

今後も、より一層の譲渡の促進や適正飼養の啓発などに取り組んでまいります。



完成した猫の飼養管理施設



施設内の様子